



井幡万友美 チェンバロリサイタル

Mayumi Ibata Cembalo Recital 2022

— 新章 —

Reborn

プログラム

F.クーラン 「クラヴサン組曲集」より

J.デュフリ 「クラヴサンのための曲集」より

武満徹 「夢見る雨」

J.S.バッハ

半音階的幻想曲とフーガ BWV903

パルティータ第4番ニ長調 BWV828

他

2022年 3月19日(土)午後2時30開演 (午後2時開場)

チケット料金《全自由席》一般 ¥3,500(当日¥4,000)税込 学生 ¥2,500(当日¥3,000)税込

前売り所:エラート音楽事務所 075(751)0617/アルティ 075(441)1414

マネージメント:エラート音楽事務所 075(751)0617 URL <https://erato.jp>

後援:京都音楽家クラブ

府民ホール

アルティ

地下鉄烏丸線「今出川駅」下車
6番出口より南へ5分

“情熱のアート”

日本人チェンバリスト井幡万友美が火曜の夜イルキルヒでドイツとフランスの作品による意欲的なプログラムを披露した。聴衆は感性豊かなアーティストと貴重なレパートリーに出会うことが出来た。華奢で小柄な井幡は楽器の前に座るとほとんど楽譜に隠れてしまうほど、しかし彼女にとって楽器をコントロールし自分の手の内に入れるのにはいくつかのアルペジオを弾くだけで充分であった。2時間近くの間、日本からやって来た演奏者は我々タイリヤードの聴衆を17世紀末から18世紀前半の音楽の旅へといざなってくれた。

溢れんばかり感受性と優雅さを持って井幡はドイツものとフランスものを弾き分ける。ベルサイユ期の作品はダイナミックの多様性には欠けるものの説得力を持ち、それはロワイエの3つの作品の驚異的な「スキタイ人の行進」で頂点に達する、またラモアの作品ではあやういずれにもかかわらず柔らかなでおどけた地図を描き、たくさんのしゃれっ気を混ぜ合わせた気の効いた対話を浮かび上がらせていた。しかし、その解釈がもっとも似合うのはドイツものであるか。フローベルガーのトッカータとバッハの息子のソナタは大バッハのライプツヒ時代の3つの作品への伏線に終始してしまっていたのであるが、大バッハの3声のシンフォニアは当惑するほど詩情に満ち、2声のインヴェンションでは対位法がきらめく、そしてとりわけ豊かに奏されるイタリア協奏曲。今回はあのタッチと感性で奏される大バッハのゴールドベルグ変奏曲、イギリス組曲を味わってみたいものだ。

2005/02/04 フランスDNA(Dernieres Nouvelles D'Alsace)紙
演奏会批

アレクサンドロ・スカルラッチィ「チェンバロのためのトッカータ」に続いて、ドメニコ・スカルラッチィの「ソナタ」、CPEバッハ《「スペインのフォリア」による変奏曲》に、続いてJSバッハの《イギリス組曲第5番》と、スカルラッチィとバッハ父子の曲を配置した。一音一音を丹念に積み重ねながら副旋律を繊細に強調する演奏で、それぞれの曲の形式や表情を巧みに引き出す。父子の間で微妙に違う楽曲構成を展開することで、古曲に新鮮な息吹を吹き込む効果を見せた。《フォリア変奏曲》を中に挟む曲の配置も的確である。後半はバロック・ヴァイオリンの近藤昌子とヴィオラ・ダ・ガンバの上田康雄が加わり、池上敏の新曲《コンセール・ア・トロワ》(初演)とJ・Ph・ラモアの《コンセールによるクラヴサン曲集》より《第4コンセール》。現代曲と古曲特有の音世界とを比較する中から、その共通性や可能性などを描き出す試みで、その意図は聴衆に伝わったようだ。何よりも井幡万友美たちの的確な演奏技量がそれを可能にしたのだろう。

「音楽の友」2005年7月号Concert Reviews

“クラヴサン、日出ずる国に目覚める”

日本人クラヴサン奏者井幡万友美が「Aux Vendredis de la Chartreuse」音楽祭でたぐいまれな演奏を披露した。会場には想像を超えたバロックからジャズ風の音までもが響き渡っていた。

舞台上の日出ずる国のアーティストから降り注いだ光はライプツィヒの生んだ天才J.S.バッハを輝くものにし、K.Ph.E.バッハの「ラ・フォリアによる12のヴァリエーション」は演奏者の非凡な妙技のなかで静かに甦った。プログラムには日本の現代作曲家(武満徹・池上敏・西邑由記子)の作品を取り入れていたのだが、井幡万友美の才能と技巧が全ての作品に新鮮な表現形式をもたらしていたと言える。

2007/08/14 フランス・モルシェイム紙

井幡万友美プロフィール

京都市立堀川高校音楽コース、同志社女子大学学芸学部音楽学科チェンバロ専攻を卒業後、国際ロータリー財団奨学金及びUGS奨学金を受け、米国オハイオ州立シンシナティ大学音楽学校大学院コースに留学。渡米と同年、Ensemble For 18th Century Music定期演奏会で4台のチェンバロのためのコンチェルトを共演し米国内で演奏活動を始める。1994年アーティストディプロマを取得し帰国。以後、15回の自主企画リサイタルを京都で開催の他、室内楽、サロンコンサート、オーケストラ公演にチェンバロ奏者として出演。また、他分野のアーティストとのコラボレーションも行っている。2002年6月、バッハの2台のチェンバロのためのコンチェルトを演奏のため渡欧。

2005年2月イルキルヒ(フランス)でリサイタル、2007年8月モルシェイム(フランス)で開催の「Aux Vendredis de la Chartreuse」音楽祭及びストラスブール(フランス)のアルザス総領事館でリサイタル、同年9月にはコルマル(フランス)でCEEJA主催「Des mots et des couleurs dans la musique de J.S.Bach」にて演奏。2008年10月ルクセンブルグにて開催の「Semaine du Japon」で邦人作品を演奏。

2010年よりドイツにおいてレコーディングディレクターJ.Zacek氏・チェンバロ製作家M.Scheer氏との録音プロジェクトを開始。2011年ACUSTICA Records(ドイツ)と契約。2012年同社より「J.S.Bach」をリリース。2016年より「Les Baroquennes(バロック音楽を愛する女たち)」メンバーとして活動開始。第13回大阪国際音楽コンクールアーリーミュージック(古楽)部門第1位及び特別賞。

京都女子大学・大阪音楽大学及び大学院講師。

井幡万友美 チェンバロリサイタル

Mayumi Iбата Cembalo Recital

～Reborn 新章～

日時 2022年3月19日(土)

午後2:30開演(午後2:00開場)

会場 京都府立府民ホール「アルティ」

地下鉄烏丸線「今出川駅」下車6番出口より南へ5分

チケット料金(全自由席)

一般 ¥3,500(当日¥4,000)税込

学生 ¥2,500(当日¥3,000)税込

前売り所

エラート音楽事務所 075(751)0617

アルティ 075(441)1414

マネージメント:エラート音楽事務所

075(751)0617 URL <https://erato.jp>

後援:京都音楽家クラブ

*未就学児の入場はご遠慮ください。

*本公演では感染症対策をしています。

ご協力の程をお願い申し上げます。